



第96号

2012 / 1

近未来世界紀行～環境と浪漫の融合★岡山の旅～

■2022年。ドイツは国内にある17基の原子力発電所を全て閉鎖し、風力などの再生エネルギーへの転換を実現し、世界的に環境立国として評価されました。またFIFAワールドカップの開催地のカタールでは、二酸化炭素(CO2)フリーの太陽エネルギーを活用したシステムによって、競技場内が27度以下に保たれるスタジアムが建設され、「環境に優しいワールドカップ」という初めてのコンセプトを実践し、高い評価を得ました。

そんな時代の中、今回の旅は世界的にエコ公共交通大国として高い評価を受けている日本の、岡山へ「環境」と「浪漫」の融合の旅に出かけてみたいと思います。

■旅の起点は、LRT吉備線の「備中一宮駅」です。レンタルサイクルもありますが、今回はガソリンを使わない環境に優しい立乗り二輪車「セグウェイ」に乗って、吉備路の旅に出かけましょ

う。2～3世紀に大和朝廷に匹敵する勢力を誇った古代王国の吉備王国の中心であったこの辺りには造山古墳、こうもり塚古墳などの豪族の古墳。吉備津神社、備中国分寺などの信仰の聖地。鬼ノ城、岩屋といった桃太郎伝説の元となった「温羅伝説」ゆかりの地。約2000年前の時代へタイムスリップするにはいくら時間があっても足りません。吉備路は「古事記」や「日本書紀」では、天皇家と吉備一族の女性との恋愛物語も多く語られています。ただ悲恋話が多かった事も、哀愁漂い浪漫あふれる吉備路を醸し出す根源となったのではないのでしょうか。

■LRT吉備線に乗車し、岡山市内へ向かいます。今、乗車している電車は「ハイブリッドLRV」と呼ばれる、架線・蓄電池併用低床電車です。岡山市街地などでは架線からパンタグラフで集電を行いますが、架線の無い郊外では、電車に搭載したニッケル・水素蓄電池である「ギガセル」の電力を使用し

走行します。また架線のある区間でパンタグラフから電力を得るだけでなく、ブレーキの一手法の発生電力も充電し、エネルギーの再生、転換も出来るのです。電車はぐるりと回りながら坂を上っていくと、新幹線の高架下をくぐり抜け岡山市街地へと入って来ました。街中には電気バスも頻繁に行き

交い、建物にはソーラーパネルがいたる所に何気なく設置されています。市民の環境への関心度の高さが伺えるとともに優しさという浪漫を感じます。

■岡山中心部の京橋港からはハイブリッドシップに乗船し、「第5回瀬戸内国際芸術祭」に訪れます。この船はディーゼル発電機、ソーラー発電やバッテリーによる電力を組み合わせる進む船です。1湾内に何も排出しないので水を汚さない。2太陽光と風力の利用により環境に優しい。3騒音、振動、煙霧が無く住居性への配慮。が大きな魅力です。

各島でアートを堪能した後、ハイブリッドシップは東の方角へ進み、小豆島の約6km東にある「水の子岩海底遺跡」海上で停泊します。ここからは「二人乗りペダル式潜水艦」に乗って海底散策です。この潜水艦は水深30mくらいまでペダルをこいて、歩くスピードで海底が楽しめる、まさに潜水スワンポートです。この辺りは鎌倉時代～桃山時代にかけて備前焼を運んだ船の難破船が沈んだ場所なのです。時間が止まったままの海底遺跡に歴史を思い巡らす事は浪漫そのものであります。もし海底から引き上げられた備前焼に眠る先人達の魂が生き返ったとしても、「環境」と「浪漫」が融合した岡山の姿を見つめ、優しく微笑んでくれるであろうと思い、今回の旅を終えたいと思います。

「環境」+「浪漫」=「優しさ」。これがこれからの街づくりの基本だと考えます。

(安藤 亮)



事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索

NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで

お正月の臨時列車



お正月の恒例行事といえば初詣。実は初詣専用列車が運転されていたというのは意外と知られていません。

岡山県内から発着をしていた列車はたくさんありますが、つい最近まで残っていたものに、出雲大社へ向かう”大社臨”といわれるのと、金比羅宮に向かう”こんぴら初日の出号”というのがありました。大社臨は団体専用列車だったため、乗車することはかないませんでした。こんぴら初日の出号は一般向けの臨時列車であったため普通に乗車することができました。

今回は、そのこんぴら初日の出号最後の運転となった、2010年1月1日を振り返ってみようと思います。



茶屋町駅：6時10分

こんぴら初日の出号は岡山駅始発ですが、時間の関係から茶屋町駅から乗車します。みどりの窓口で指定席グリーン券を発券してもらいホームでひたすら寒さに耐えながら待ちます。電光掲示の時刻表示はなぜか6時23分発。



茶屋町駅：6時22分

さっそく乗車します。こんぴら初日の出号に使用されていた車両は岡山電車区所属の”ゆめじ”です。JR西日本に所属していたジョイフルトレイン(団体/臨時列車)の中では唯一の電車でしたが、今では廃車されて見ることはできません。

児島駅：6時35分

児島駅でなんと30分近く停車します。これには1つ理由が、なんとこの列車、瀬戸大橋を渡っている間に初日の出を迎えることができるようなダイヤになっていました。この間に後続の特急や快速に抜かれていきます。実は当日、車両故障のために暖房が効かない状態。車内気温と外気温がほぼ同じ・・・ということで、懐炉の配布がありました。

多度津駅：

ここでまた17分ほど止まります。またまた後続の特急や快速に抜かれていきます。

金蔵寺駅：

ここで最後の運転停車です。対向列車とすれ違います。

善通寺駅：8時10分

善通寺への初詣客のためにここで停車します。降りるお客はごくわずかです。

琴平駅：8時13分

終点到着です。茶屋町駅から約2時間の小旅行はこれで終わりです。



今回のような特殊な車両を使った初詣用の臨時列車というのは今はありませんが、実は、普通の車両を使った臨時列車は今でも運転されています。それは、吉備線で運転される最上稲荷/吉備津彦神社/吉備津神社への初詣客のための列車です。車で初詣も良いですが、渋滞を気にしなくてもいい鉄道を使った初詣もいかがですか？